

## 第3回瑞浪市道の駅検討委員会

### <議事要旨>

日時：平成30年11月12日（月）13：30～

場所：釜戸コミュニティーセンター

出席委員：足立亘、石川亮子、伊藤和美、鷺見正己、出村嘉史、名張誠、原田守啓、  
水野吉衛、水野幹隆、溝口純司、溝口博敏、森真二、鷺尾賢一郎、渡邊敏博  
（五十音順、敬称略）

欠席委員：無し

事務局：瑞浪市役所 建設部 都市計画課

#### ■会議概要

（※議事要旨の発言者は、学識経験者の原田会長・出村委員のみ表示）

#### 1. 開会

#### 2. 会長あいさつ

#### 3. 議事

##### （1）ワークショップ開催結果報告

・事務局より資料1の説明を行った。

会 長 ワークショップに参加された渡邊委員から感想をいただきたい。

委 員 参加者の世代は様々であった。道の駅に対する夢を語るような場であった。現実とどのように結び付くのかというところまで議論は及ばなかった印象である。

会 長 実際に自分が道の駅に関わるとしたらというテーマであったが、地域の意見はどうか。

委 員 道の駅でボランティアをしたい、働きたいと考える人が予想より多いなという印象であった。

委 員 実現できるかどうかという視点ではなく、欲しいものを挙げている印象であったが、その中で実現出来そうなものが見えてきた。これなら関われそうだと話す人もいて、今後も地域を巻き込みながら、事業を進めていけそうな印象であった。

会 長 ワークショップの結果も含めて、基本構想案を取りまとめているので、後ほど事務局より説明いただく。それでは次の議事に移る。

## (2) 地域活性化の拠点整備に関するアンケート結果（近隣在住者アンケート）

・事務局より資料2の説明を行った。

会 長 このアンケートによって、外部の人が道の駅等に望むものが見えてきた。この結果をすべて取り入れるわけではないが、今後の議論を進める上で重要な資料となる。

委 員 周辺の道の駅は国道19号から離れた位置にあるが、計画している道の駅は名古屋から約50km地点にあり、瑞浪恵那道路に面しているの、休憩で利用する人が多いのではないかと。道の駅の一般的なイメージがアンケート結果からわかるが、目新しい意見はないようだ。

会 長 道の駅の一般的なイメージは確認できたが、この地域にとって必要なものは必ずしもアンケート結果と一致しないので、その点を踏まえて議論する必要がある。

出村委員 このアンケート結果より、薄く広い層で、一般的な道の駅のイメージが共有されていることがわかる。このイメージがベーシックな道の駅であるが、より良い道の駅にするには、ピンホールマーケティングなどにより、一定のターゲットに特化することで価値を創出することも重要である。

会 長 周辺の道の駅の中で、今回の計画地と同等の交通量を有するものはあるか。

事務局 周辺の道の駅は半径30km圏内で抽出している。

委 員 「4. 志野・織部」、「8. 可児ッテ」、「11. 美濃白川」が2桁国道に面している。「9. みのかも」は東海環状自動車道に接するハイウェイオアシスである。

会 長 地域の人が想像する道路利用者が望む機能と、実際に道路利用者が望む機能はどのような違いがあったか。

事務局 地域の方は温浴施設を挙げていたが、近隣在住者アンケート結果ではそれほど要望がなかった。コンビニや農産物直売所、土産物等は、おおよそ地域の人の想像どおりであった。

会 長 わざわざ訪れたい機能として写真映えするスポットが1位であったことは意外である。

出村委員 写真映えする景観やご当地グルメ等、ニーズの上位3つは「そこでしかないものであり」重要なことである。

会 長 地域の素材を大事にすることが重要であることがうかがえる。それでは次の議事に移る。

## (3) 瑞浪市道の駅基本構想案について（道の駅検討背景、導入する機能、コンセプト等）

・事務局より資料3（前半）の説明を行った。

会 長 改めて何を目標として検討を進めるかについて、市の方針も含めて再度整理して説明いただいた。道の駅をつくるのが目的ではなく、市の将来に資する取り

組みを、道の駅を手段の一つとして、さまざまな取組みを組み合わせることで、いこうということである。アンケート結果や、上位計画との関連、地域ニーズ等をまとめて、今後の目指すべき方向性を提案していただいた。

- 委員 P4で計画地が示されているが、川側の土地は計画地に含まれないのか。
- 事務局 計画地は決定しているわけではなく、川との関連性も含めて検討を進める。
- 会長 現時点では、計画地はおおよその範囲を示す方が良い。
- 事務局 道の駅のおおよその敷地は想定しているが、限定しているわけではない。計画地の表現方法を修正する。
- 委員 瑞浪恵那道路と現道との高さ関係はどのようになるのか。
- 事務局 瑞浪恵那道路はたくさん出入口があるような道路ではないが、恵那御嵩線とは、現状の高さで平面交差することになり、住民はこの交差点から乗り入れ可能である。
- 委員 最初に思い描いた夢が、議論が進み現実味を帯びてきたときに、委員の意見や計画が萎んでいき、ありふれた計画となってしまっはいけない。
- 会長 道の駅を作るだけでは、必ずしも地域のためにならないので、本当に求められていることを検討しなければならない。ポイントとしては、道の駅そのものが目的ではなく、様々な施策を組み合わせながら地域とまちづくりを行うことと、時間をかけて取り組むこととなるので、これからの時間の過ごし方が重要である。
- 委員 商工会議所としても、リニア開通までに瑞浪恵那道路の全線開通をしていただけるように、何度となく国に陳情している。道路の開通により、リニア駅へのアクセス向上だけでなく、東美濃地域の発展が期待できるので、引き続き強調していきたい。また、産業の衰退はまさに市全体が直面している問題であり、駅前商店街の衰退も目立つ。商店街から人が遠退き、最近も駅前の大型店が廃業している状況である。商工会議所の会員企業数も近年激減しており、1,000店を割り込んでいる。新しくできる道の駅は、釜戸だけでなく市として地域活力の向上を目指す場所と位置付け、今後もPRしていきたい。
- 会長 瑞浪恵那道路の計画状況について説明いただきたい。
- 事務局 瑞浪恵那道路は恵那市と瑞浪市を合わせて12.5kmのバイパス道路であり、今年度において恵那工区の事業化が決定している。市としては2027年のリニア開通までに全線開通できるように、国に対して用地買収や事業調整等の協力を行っていく。
- 会長 基本構想は釜戸だけでなく市全体を見据えて考えていることについて、誤解のないようにしていただきたい。
- 事務局 建設部所管で構想の取りまとめを行っているが、市の現状を見ると、各種の問題は釜戸だけのものではない。道の駅は、釜戸地区を中心に市の課題解決に向

けて取り組んでいるわけだが、この釜戸の取り組みが周辺地区に波及することも考えている。

会 長 釜戸での取り組みが、他の地域でも活性化に取り組む上でも参考になるのではないかと考える。引き続き、事務局より資料3の説明をしていただく。

・事務局より資料3（後半）の説明を行った。

会 長 P11の①～⑤のそれぞれの項目は、今までのアンケート、ワークショップ、議論や検討結果を踏まえたものか。

事務局 そうである。これまで出された意見を整理し、5つの柱に分類している。

会 長 P12の施策は全て実施するというのではなく、取り組む可能性があるものを表現しているという理解で良いか。

事務局 そうである。全て取り組むということではなく、可能性のあるものについて整理している。出来ることから選択し、取り組んでいく必要がある。

会 長 基本構想として取りまとめるにあたり、どのような場としていくのか、何年後にどのような姿を実現するのか等、議論すべきことはあるが、ここまでの内容で意見はないか。

委 員 地域住民が望むものと、道路利用者が望むものにギャップがあるように感じるが、実際はどうか。

会 長 両者のギャップをどのように埋めるのかについては、P17にまとめていただいている。よろずやは地域住民にとって便利な施設であると同時に、道路利用者にも必要とされている。また水辺も道路利用者だけでなく、地域の子供たちが安全に遊べる場にもなるので、両者のニーズに即した内容となっていると考える。

委 員 施設を訪れる上で最も印象に残ることは、そこで働く人の力ではないか。人に魅力を感じて、また来たいと思うのではないか。

出村委員 その場所で活動する人のストーリーに魅力を感じ、人が集まるということである。また、よろずやというものは、コンビニのようにどこにでもあるものではなく、ここにしかないものを置いている店になるはずである。地域の人にとっては当たり前のもので、外部の人からしたら面白いものかもしれない。そういうものが地元と外部を繋ぐきっかけになる。釜戸に人が根付き、生き生きと暮らすことで、そこに価値が生まれる。価値を生み出すためには、道の駅だけでなく、隣り合う既存市街地と合わせて、2段構えでまちの魅力を高めていかなければならない。

委 員 元気な人が働いている道の駅に行きたいと思う。道の駅の計画を進める上で、人材の育成から取り組むということは大切だと感じた。愛を持って取り組んでいるかどうかは大きな違いである。

- 委員 基本構想は委員会から市へ答申し、市の基本構想となるという理解で良いか。
- 事務局 この委員会の目的は基本構想の原案を作成いただくことである。その原案をもとに、市民のご意見も伺いながら、市としての基本構想とする予定である。その後、その基本構想に基づき事業を進めていくことになる。
- 委員 道の駅の整備にかかる費用は検討しないのか。
- 事務局 財政面の制約はあるので、今後おおむねの事業費を算出し、実現可能性を検証する。
- 委員 東濃地域における県の広域物流拠点はセラミックパーク MINO であり、災害時の物資はそこから送られてくるが、道の駅に市の物流拠点としての機能も入れてはどうか。
- 事務局 上平交差点付近は、災害時の拠点としての可能性はあるが、具体的には今後議論を深めたい。
- 会長 構想の原案を取りまとめるにあたり、人が育つための時間の使い方や、道の駅の機能や事業費等、引き続き議論を深めていかなければならない。本日は、出村委員から人とまちづくりの取り組みについて事例を交えて紹介いただく。

#### ○出村委員より事例紹介

- 出村委員 施設の枠組みを何もない状態で作るのではなく、エリアの価値を創造しようとする、経営感覚を持った事業者を形成することが先である。
- 会長 委員会以外の場でも、地域のやる気のある人々を交えながら、議論を進めてはどうか。
- 委員 エリアの価値を高めるためには、道の駅にも具体的に魅力となるモノが必要ではないか。
- 出村委員 初めにモノありきではなく、魅力を生み出し、動かしていく人が大切である。
- 会長 エリアマネジメントを考える上では、計画地だけでなく、まち全体で考える必要がある。今回は、時間をかけてどのように取り組むのかについて、具体案を提示しながら議論を深めたい。委員会の予定としては次回で最後だが、その場で合意を得られない可能性が高い。
- 事務局 最終の委員会は2月中旬を予定しているが、議論を深めるため、1月下旬に追加開催をお願いしたい。
- 会長 委員会を追加で開催することについて、ご了承いただけるか。
- 一同 異議なし。
- 会長 最後に一言ずつご発言いただきたい。
- 委員 資料3で示す立寄り人数は、周辺の道の駅と比較してどうか。
- 事務局 立寄り人数は前面交通量から算出したものであり、それをもとにコンビニ程度の規模であれば商業として成立するというを検証している。今後、さらに

地域の特色や機能を付加することで、発展の可能性はある。

- 会 長 立寄り人数は交通量に比例するという理解で良いか。
- 事務局 交通量は1日約2万台であり、周辺の道の駅と比較して多いと言える。
- 委 員 計画値はあてにならない。きなあとの計画時にも様々な検討を行ったが、全く異なる結果となった。
- 委 員 自分自身は道の駅を目的地とすることがないので、立寄り目的となる道の駅という考えは意外であった。物販施設だけでは、長時間の滞在につながらないため、まちづくりのためになることを考えていかなければならない。
- 委 員 リバーポートパーク美濃加茂のような、テントを設置することから先行して始めてはどうか。部分的にでも整地し、先行して取り組むことで、参加者が行動しながら考えていけるようにしてはどうかと思う。
- 委 員 2~3年後から市場のようなものを開いていけば、10年後に向けた道筋を作れるのではないかと考える。
- 出村委員 リバーポートパーク美濃加茂は社会実験という形で、施設が出来る前から、そのような取り組みを行っており、その経験を踏まえて施設を整備している。
- 委 員 SNSをうまく利用して、瑞浪市のPRができないか。
- 委 員 いきなり広大な土地を買収し、造成するとなると簡単にはいかないが、河川区域を先行して利用する手はないか。
- 委 員 河川区域を利用することは可能だが、いづれにしても造成は必要である。人づくりを進めるためには、まず場を確保することである。10年後を目指して、人づくりと施設整備のスケジュールを合わせていかなければならない。例えば、公園だけ先に整備し、そこにテントを建てるだけでも、人の集まる場が出来る。人づくりはもちろんだが、まずは人が集まれる場づくりを行わなければならないと感じた。アンケート結果では、道の駅を訪れる理由として、農産物や特産物を挙げている人が多かった。今回の計画では、きなあたと連携するということであるが、人々が道の駅に対して魅力に感じているものを上回る魅力を創出することが、今後の課題になりそうだ。
- 委 員 きなあतとしては、道の駅と競合することを心配していた。経営する上では、利益を出さなければならないので、市として共存共栄という判断をしていたことは有難い。今後新たな事業展開を進めるので、将来的に余裕が出れば道の駅に協力していきたいと考えている。
- 会 長 道の駅だけでなく、きなあたとともに発展することが地域の活性化に繋がる。きなあたとの連携は様々な形で行えると思う。

#### (4) その他

- 事務局 次回の委員会は1月下旬とし、改めて日程の調整をさせていただく。

#### 4. 閉会

以上